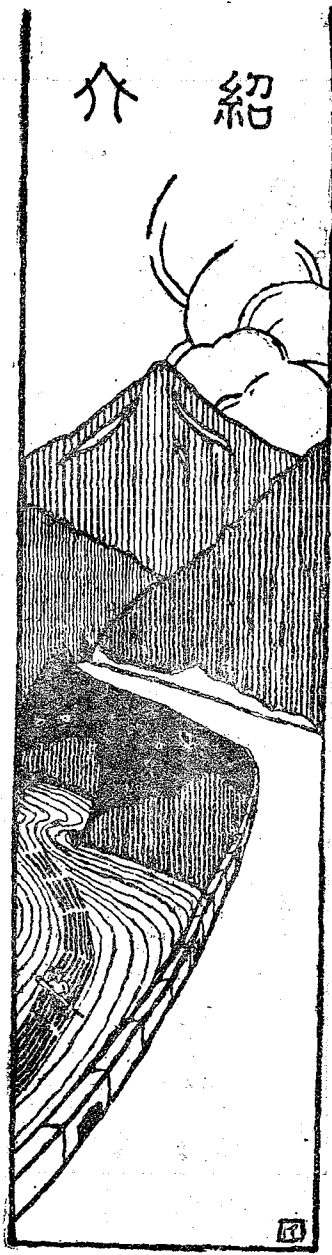


紹介



有志者の手
 になれる

桐生市の道路改良事業

桐生市助役 荻野欽司

一 動 機

大正八年五月本市（其の當時は町）は都市計劃事業遂行の前提として道路系統を樹立せんと企て、此の目的の爲に全市に互つて實地測量に着手し現在の街衢の狀況、

將來行ふべき諸種計劃との關係、天然の地形、其他諸種の點より考覈し調査研究を爲し大正九年一月に至つて稍々其の完了を告げた、其の當時偶々市制施行の聲が頗る高潮に達し右道路系統の實現を促進せんと機運も益々旺盛になつたけれども古から自然的發達を遂げて來た現

在道路は曲折狹隘を極めて居るので之が整理改修には多大の費用を要する次第であつて財源の關係上速に着手するの運に至らず市當局は止むなく荏苒日を送るの外はなかつた。

大正十年三月一日市制が實施せられることとなるや道路系統實現促進の機運は一層熾烈となつたけれども、一方には上水道事業の計劃があると共に耕地整理基本調査を爲して上述の道路系統に修正を加へ計劃を完全に樹立するを以て最も有利適當なりとする議が起り更に調査を行ふこととなつた、然るに各大字の有志者間に市の發展上道路改良事業は一日も忽諸に附してはならない、決して調査調査で以て日を送るべきではない、又本市に於ける道路改良事業の如きは市當局のみに委して民間の者が手を束ねて黙視して居ることは出来ないといふ議論が湧き起り、有志者は遂に蹶起して道路改良事業促進運動を起すに至り、大正十一年七月大字安樂土の有志者が發起

となり有志者自らの手によつて改良事業を實行せんことを出願し、又之に對して市費の補助を下附されんことを申請するに至つた、その最初の出願は東部安樂土幹線道路延長一二二五間で總工費十一萬四千七百餘圓であつた、そこで市は喜んで此の出願を許可し、爾後有志者の出願工事が市の豫定計劃路線に該當する場合には、其の總工費の三分の一を補助すべきことを議決し出願工事の助成に努めた。

以後此の安樂土幹線の起工を動機として、各方面の有志者の間に競争的に出願工事の計劃が成り、遂に後述する如く多數路線の新築又は改築の完成を見るに至り、有志者の寄附した費用は頗る巨額に上つたのである。

今や市は上水道施設の設計も完了し、又耕地整理基本調査も完成を告げ、有志者の企劃に係る道路改良事業も此の基本調査に基準を置き計劃を進め、市は繼續的に此の大企業の達成に努力しつゝある次第である。

二 既成の改良工事

(イ) 路線數 十五、此の延長五、二〇一間二分

(ロ) 右工費總額金四九五、二〇一圓八三錢

(ハ) 右に對する市補助金一四一、七〇〇圓

市補助金以外は總て工事出願者たる有志者の敷地寄

附及寄附金によつたのである。

三 本年度に於て着手する工事

(イ) 路線數 八、此の延長一、一六〇間五分

(ロ) 右工費總額金一二三、六二二圓九二錢七厘

(ハ) 右に對する市補助金四一、二〇九圓

市補助金以外は總て工事出願者たる有志者の敷地寄

附及寄附金によることは既成工事と同様である。

四 結 論

以上の如く今や各字有志者は熱烈なる意氣を以て本事業の完成に努められつゝあるのであるが、此の機運は恐らく數年に亙り持續し遂には本市道路の面目を一新するに至るであらうと信するのである、又本市は極力之が達成に努め出來得る限り補助を與ふる方針である。

尙添附した圖面でも明に知ることが出來るように出願工事は現在郊外の田畑地であつて、將來市街地となるべき地域に道路を開鑿したものが少くない、この進んだ計劃の實施は聊か本市の誇とするに足ると思ふ。

本市に於て斯くの如き機運を生じたのは、市理事者と有志者とが此の計劃は單に道路が改良されるといふ直接の利益を生ずるのみならず、更に間接に左の如き利益あることを念ひ常に不言の間に之が動機の發生に努めたが故である、即ち

一 公共の爲に有形に無形に擧つて能く犠牲に堪へ又は奉仕を爲すの美風を助長すること

二 市の將來に備ふるは即ち自己（子孫は自己の延長なる故）の將來に備ふる所以なるを知らしむること

三 市の直營に比し時日に於て亦經費に於て經濟的に、

しかも圓滑に事實を遂行し兼て道路愛護の良風を副致すること

之を要するに、本事業は道路改良による直接の効果を

生じ、本市の産業的活動上著しい利益を生ずることは言ふまでもない所であるが、更に有志が卒先其の模範を示

して、自治觀念を涵養し團體生活の恩恵と共同の效果とを事實に依り理解せしめ、市民の市たることを自覺せしめ以て愛市の念を一層旺盛にし、延いては一般市政の運行に資する所大なるものがあると信するのである。

◎空には飛行機、地には自動車

宙返りで俗諺にまでうたはれたアート・スマスの來朝以來、英機飛來、米機飛來、伊機飛來、佛機飛來、遂にはアルセンチン機飛來などと久しい間我國航空界はお客様の歡迎ばかりしてゐた、歡迎も結構だが一度も歡迎して貰ふやうな機會の無かつたのはいかにも心細いことであつた、ところが此度いよいよ我國の飛行機が翼を列べて歐洲まで飛んで行かうといふことになり、やつと列國のお仲間入りが出来さうになつた、途中で落ちたらお仲間入りも夢となるわけ、攝政の宮様をはじめとして七千萬の國民が齊しく力癩を入れてゐるのだ、しつかり飛んで貰ひ度い。すめら御國の名譽の爲めに。

大正八年に本會が自動車で東海道を走り道路の改良を宣傳した時には、至る所で珍らしがられたものだが、此頃では自動車も一向珍らしくなくなつた、勿論歐米諸國に比ぶればお話をにもならないが、日に月に自動車の利用が増加し、内務省あたりでも自動車道路改良計劃が立案せられ、それが至る所で素晴らしい好評を博するやうになつたは頼もしい。

來るべき時代は「空には飛行機、地には自動車」といふ時代であることは敢て先見の明ある人を待たずして明である、訪歐飛行の成功を祈ると共に、自動車道路改良計劃の實現を祈ること切である、若し之に反對する人あらばその時代を解せざる首者である、一日も速に民法第十一條に依つて准禁治産の宣告でもしなければ社會は著しい損害を蒙るであらう。（省吾生）

